

「南部菱刺し」魅力発信コンテンツ調査研究と ブックレット『菱刺し A to Z』製作

川守田 礼子[†]・高松 有咲^{††}・田中館 瑠花^{†††}

Survey and Research on Content to Disseminate Appeal of "Nambu Diamond Embroidery" and Production of Booklet "Hishizashi A to Z"

Reiko KAWAMORITA, Arisa TAKAMATSU and Ruka TANAKADATE

ABSTRACT

In this study, we conducted a survey and research to produce information content aimed at disseminating the appeal of Nambu Diamond Embroidery. Based on the results of the research, we produced a booklet and digital booklet featuring Nambu Diamond Embroidery "Hishizashi A to Z" and made it available to the public.

Key Words: *Nambu Diamond Embroidery, Booklet, Hishizashi A to Z, Traditional Culture of the Region, Information dissemination*

キーワード: 南部菱刺し, ブックレット, 菱刺し A to Z, 地域の伝統文化, 情報発信

1. はじめに

青森県の伝統工芸品に、日本三大刺し子に数えられる津軽地方の「こぎん刺し」および南部地方の「南部菱刺し」がある。刺し子の手軽さと幾何学模様のデザイン性の高さから、手芸愛好家を中心に全国的な人気を得ており、地元においても地域の文化資源・観光資源として活用されている。さらに新型コロナの感染拡大による価値観の変化や外出自粛（巣ごもり生活）等の影響によって、伝統的な手仕事への注目度が高まってきている。自宅で気軽に楽しめる「こぎん刺し」や「南部菱刺し」などの刺し子には、「見る」「買う」だけでなく「作る」というニーズの高まりがある。

しかし、昭和初期から伝統産業として製作・継承活動が活発に行われていた「こぎん刺し」と比較し、「南部菱刺し」は地元の愛好家が地道に製作・継承活動を行ってきたが、全国および地元における認知度がそれほど高くはなく、時には「こぎん刺し」と混同されることもある。特に若い世代における認知度が低く、「南部菱刺し」の活性化と次世代への継承を考えると課題が多い。

[†] 感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授

^{††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・卒業生

^{†††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・卒業生

2020年9月東京・内幸町に八戸都市圏交流プラザ「8base(エイトベース)」がオープンするなど、八戸圏域・青森県の物産・観光情報発信の強化がますます求められている。こうした状況を受け、本研究では、八戸地域の伝統文化としての「南部菱刺し」の価値や魅力をより分かりやすく紹介する情報コンテンツ作りに取り組む。本研究の成果は、「南部菱刺し」の芸術・文化・民俗的価値の再発見、および、地域に継承される伝統的手仕事の活性化に資すると共に、青森県全体の観光振興に寄与する。

本研究では、「南部菱刺しの魅力発信」を目的とした情報コンテンツ制作のための調査研究事業を実施する。その調査結果を踏まえ、「南部菱刺し」に特化したブックレットおよびデジタルブックレットを製作する。「こぎん刺し」では『そらとぶこぎん』など専門冊子がすでに刊行されているのに対し、「南部菱刺し」に特化した新しい冊子やガイドブックはほとんど見られないのが現状である。本研究で製作するブックレットの内容としては、地域の風土や生活文化とともに発展していた歴史や民俗学的な側面、幾何学模様や刺し技法など美術工芸的な価値や特色、現代の製作者たちの取り組みや製作にかける想い、博物館・資料館に所蔵されている古作等の文化的財産に関する情報などを調査し、冊子コンテンツとして掲載することとした。

2. 研究計画

本研究は以下のような流れで進めた(表1)。主に、「魅力発信コンテンツ調査活動」「ブックレット製作活動」「ブックレット公開活動」の三点からなる。活動時期は令和3年4月から令和4年3月である。活動時期は明確に分けずに調査と並行して製作を進めるなど柔軟に対処した。

表1 研究の流れ

	活動段階 (活動時期)	活動内容
①	魅力発信コンテンツ調査活動 (令和3年4月～12月)	①製作者へのヒアリング調査、工房見学、作品調査 ②博物館・歴史資料館等における調査、古作調査 ③観光関連施設・工芸品販売施設における調査 ④図書館・WEBにおける文献調査
②	ブックレット製作活動 (令和3年7月～12月)	①素案作成 ②ワークショップにおける調査結果発表、情報共有、意見交換 ③素案修正、冊子コンテンツの構成・目次の決定 ④冊子コンテンツの作成、レイアウトデザイン ⑤外部評価による修正、校正 ⑥入稿、印刷、製本
③	ブックレット公開活動 (令和4年1月～3月)	①印刷物頒布、報告会イベントの開催 ②デジタルブックレットの公開 ③メディア対応 ④評価、総括

3. 活動内容

3.1 魅力発信コンテンツ調査活動

まず、「南部菱刺し」伝統工芸士ら製作者の活動拠点や工房、および、博物館や歴史資料館、観光関連施設・工芸品販売施設など、「南部菱刺し」および「刺し子文化」に関連する青森県内施設を訪問し調査を行った。新型コロナウイルス感染拡大状況に配慮し、一部電話によるヒアリング調査とした。主な調査先は以下のとおりである。

- 1) 製作者・研究者（敬称略）：工藤まさ（西野刺っ娘の会）、天羽やよい、中村禮子・中村晃子・横井充子（南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA）、高橋博子、山田友子（南部菱刺研究会・つづれや）、北向春枝、木滝奈央（nonoc）、長岡喜美子、平井ゆかり、まちぐみ、北向真衣、會田美喜（つがる工芸店）、三上洋子（あおもり北のまほろば歴史館）
- 2) 博物館・公的機関：八戸市博物館、八戸市立図書館、青森市教育委員会、あおもり北のまほろば歴史館、三沢歴史民俗資料館、五戸町教育委員会、ごのへ郷土館、八戸市立湊中学校、岩手県立種市高等学校など
- 3) 観光・販売施設：つがる工芸店、一般財団法人 VISIT はちのへ、ユートリー、八戸ポータルミュージアムはっち、県内道の駅など

本調査で貴重だったのは、青森市教育委員会の協力のもと、南部菱刺しの古作調査を行えたことである（写真1）。青森県有形民俗文化財となっている青森市所蔵の「青森の刺しこ着」のうち、南部菱刺しの前垂れ数十点の調査・撮影を行った。調査に際しては伝統工芸士の山田友子より調査協力および助言を得た。青森市教育委員会文化財保護課担当者とは打ち合わせを行い、画像データの冊子掲載の許諾を得た。

また、今回の冊子では、「南部菱刺し」に関わっている「人」をクローズアップしたいという目的のもと、製作者・関係者へのヒアリング調査を丁寧に行った（写真2）。調査に大学生が参加することで、若者の視点を取り入れ、より「南部菱刺し」の新しい魅力を発掘できるよう努めた。本調査で得た人のつながりが新たな調査取材対象をもたらすなど有機的な連鎖を生んだ。



写真1 青森市所蔵の前垂れ古作調査



写真2 八戸市の市民集団まちぐみ菱刺し部の取材

3.2 ブックレット製作活動

冊子コンテンツ素案を作成したのち、八戸市ポータルミュージアムはっちにおける公開ワークショップを開催し、調査結果の発表や情報共有、意見交換などを行った(写真3)。その結果を踏まえ、素案を見直し、「南部菱刺し」ブックレットに掲載するコンテンツ案を策定し、それに基づいて追加調査・追加取材を実施した。

調査結果を踏まえ、南部菱刺しの魅力発信に効果的な情報を整理し、タイトルを『菱刺し A to Z』とし、A から Z まで 26 個のキーワードで南部菱刺しを紹介する構成に決めた。その後、レイアウトデザインやイラスト製作・解説文作成を行った。データは Adobe Illustrator で作成した。

完成したパイロット版ブックレットを、本学学生や製作者などの関係者に評価してもらい、そこで得た助言を活かしデータを修正した。完成稿は印刷業者委託(印刷の通販グラフィック)で製本印刷した。完成した冊子は、32 ページの A5 版中綴じ冊子、フルカラー印刷で、印刷部数は 100 部である(写真4)。



写真3 公開ワークショップでの活発な意見交換



写真4 完成したブックレット『菱刺し A to Z』

3.3 ブックレット公開活動

八戸市ポータルミュージアムはっちで、完成報告会イベントを開催し一般配布する予定であったが、青森県内における急激な新型コロナウイルス感染拡大を受けて会場が臨時休館したため、やむなくイベントは中止とした。令和4年1月19日～21日開催の八戸工業大学感性デザイン学部「卒業制作・論文学内展」における完成発表を代替の場とした。

完成冊子の一般向け無料頒布は、VISIT はちのへの協力により、ユートリー1階おみやげショップにおいて行った。開店10時より配布を開始し、3時間で予定数頒布完了となった。売り場担当者から「配布日前より問い合わせが殺到しており、増刷を求める声が多かった」とのコメントをいただいた。ほか、完成冊子は官公庁や製作者や関連施設など研究協力機関に配布した。

デジタル版公開に向けてブックレットコンテンツの修正作業を行った。冊子配布後に製作者など調査協力者に対して行ったヒアリング調査の結果をデジタル版に反映させた。完成したデジタルブックレットを、八戸工業大学ホームページおよびVISIT はちのへホームページに掲載した(図1)。

- 八戸工業大学ホームページ (掲載日 令和4年2月21日)
南部菱刺しブックレット『菱刺し A to Z』公開のご案内 (デジタル版冊子の公開)
URL : <https://www.hi-tech.ac.jp/entry/23216>
- VISIT はちのへホームページ (掲載日 令和4年2月21日)
「南部菱刺し」紹介ページ パンフダウンロード
URL : <https://visithachinohe.com/brochure/>

さらに、新聞取材やラジオ出演など広報活動を通して、『菱刺し A to Z』の PR と南部菱刺しの魅力発信を行った (写真5)。また、研究室公式インスタグラムにおける冊子アンケート実施や、冊子に関する問い合わせへの対応などを行った。

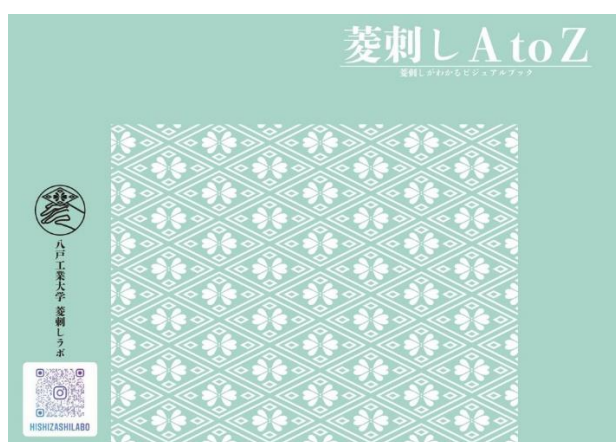


図1 デジタルブックレット『菱刺し A to Z』表紙



図5 BeFM ラジオ出演の様子

4. おわりに

本研究では、「南部菱刺しの魅力発信」を目的とした南部菱刺しブックレット『菱刺し A to Z』およびデジタルブックレットを製作し、一般公開を行った。ブックレットコンテンツ調査研究として、南部菱刺し伝統工芸士や博物館・資料館などの関連施設を訪問し調査を行い、「南部菱刺し」に関する詳細かつ具体的な情報を収集するとともに、コンテンツやデザインに学生の感性を取り入れることで若年層への訴求力を高め、より現代にアピールできる「南部菱刺し」冊子の製作を行った。『菱刺し A to Z』100部印刷分はユートリーでの一般頒布のほか、官公庁、観光施設、関係者等に配布した。また、同コンテンツを用いたデジタルブックレットを大学ホームページおよび VISIT はちのへホームページで公開し、県内外からさまざまな反響を得た。南部菱刺しとしては「初」となる冊子発刊という新規の取り組みとして地元メディアで取り上げられ、地域文化資源としての南部菱刺しの価値再発見につながった。また、冊子製作のための調査活動を通じて製作者や官公庁、関連施設とさらなる連携を深めることができ、官公庁、観光施設、南部菱刺し製作者、学生らを結ぶ、南部菱刺し振興の人的ネットワークを構築した。冊子の販売や続編を期待する声が多かったため、今後も継続的な研究活動を行っていきたい。

本研究にあたって、公益財団法人青森学術文化振興財団より、令和3年度青森学術文化振興財団事業として助成を受けている。

参考文献

- 1) 青森県庁 商工労働部 地域産業課「青森県の伝統工芸品（南部菱刺し）」：
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/shoko/chiikisangyo/aomori_dento-kogei_nanbuhishizashi.html (2022年12月5日アクセス)
- 2) 八戸工業大学『菱刺し A to Z』：<https://www.hi-tech.ac.jp/entry/23216> (2022年12月5日アクセス)
- 3) VISIT はちのへ観光物産サイト「南部菱刺し」：<https://visithachinohe.com/shopping/nanbuhisisasi/> (2022年12月5日アクセス)
- 4) 青森市教育委員会文化財保護課「青森の刺しこ着」：https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-bunka/kenyuukei_10.html (2022年12月5日アクセス)

要 旨

本研究では、南部菱刺しの魅力発信を目的とした情報コンテンツ制作のための調査研究を実施した。その調査結果に基づき、南部菱刺しを特集したブックレットおよびデジタルブックレット『菱刺し A to Z』を製作し、一般公開を行った。

キーワード：南部菱刺し、ブックレット、菱刺し A to Z、地域の伝統文化、情報発信